

# 学校評価趣意書

令和3年4月21日  
尾道市立御調中学校

## 1 学校内外の状況

本校は、新学制が実施された、昭和22年4月、東部中学校、御調町立第一中学校、御調町三原市中学校組合立御調中学校として、それぞれ沿革をたどり、昭和44年には、名目統合を実施し、昭和46年には、現在地に移転を完了し、現在に至る。

地域の学校に対する支援はあついものがあり、教育活動推進にあたっては、保護者や地域への働きかけと、「御調地域連携型中高一貫教育校」を基盤に、さらに発展させ小中高が一体となり12年間見通した教育活動を推進していくことが大切である。

本校生徒は素直で元気であり、ボランティア意識も高い。基本的生活習慣が定着している生徒や判断力・社会性等も身に付いている生徒も少なくなく、概ね落ち着いた環境の中で生活を送ることができている。

学力面でみると、卒業生はコロナ禍により自校採点で行われた全国学力学習状況調査(10月)において顕著な伸びを示すとともに、年度末の進路実績においてもほぼ満足のいく状況となった。新3年生の標準学力調査(4月,1月)はほぼ平均を超え、着実に学力を定着させてきており、さらなる成長が期待される場所である。しかし、学力の二極化傾向は否めず今後の課題である。新2年生は学力の二極化傾向も含め、特別な支援を必要としている生徒が多いという課題がある。ただし、素直さと活力がある生徒は多いので、見通しを持った計画的な指導を通して課題解決に取り組み、改善を図っていききたい。

このような状況の中、高校卒業後のイメージを全教職員が共有し、小中連携の一層の充実と連携型中高一貫教育の特色を活かした取組の改善・充実を図るとともに、12年間を見通した系統的・計画的な取組により、知・徳・体の調和的発達を促し「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育成していききたい。そして、「御調中学校で学んでよかった。御調中学校区で育ってよかった。」と誇りに思える学校を目指し、日々の教育活動の充実と質の向上を図っていききたい。

今年度はキーワードの“そうぞう”(想像力,創造力)に「クロスロード」を新たに付け加え、時間軸(小中高のつながり)と空間軸(家庭・地域とのつながり)の中で、「令和の日本型学校教育(“個別最適な学び”や“協働的な学び”等)」を目指した教育改革の推進と学校文化(“御調プライド”等)創造に取り組んでいきたい。とりわけ読解力や語彙力の向上を軸に、昨年度に引き続きしっかりと社会的資質や行動力を身に付けさせ、自らの言葉で夢を語り、志を抱いて未来を“そうぞう”できる生徒の育成に取り組んでいきたい。その結果、予測困難な社会の変化に主体的に関わり、感性を豊かに働かせながら、「どのような未来を創っていくのか」、「どのように社会や人生をよりよいものにしていくのか」、「豊かな人生をどう切り拓いていくのか」という目的を自ら考え、自らの可能性を發揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けさせていきたい。併せて、ここ御調町の未来を想像し、新たな価値を創造していけるような生徒の育成に取り組み、次代の担い手なり得る力を身に付けさせていきたい。

## 2 ミッション

「夢と志を抱き、社会に貢献できる人材を育成する」

## 3 ビジョン

【安心・安全で、生徒が夢と志を抱き、心豊かに生き生きと活動する学校】

【自ら学び、考え、判断し行動する生徒を育成する学校】

【心豊かに、自他を尊重し、共に学び、高め合う生徒を育成する学校】

- 語彙力、読解力の向上を軸に「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現を目指す。(知)
- 生徒間での成長と、他を思いやる心を育成する。(徳)
- 業務改善を志向し、ワーク・ライフ・バランスの実現を目指す。(働き方改革)

#### 4 重点課題

○語彙力、読解力の向上を軸に「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現を目指す。(知)

- ・主体的な学習態度の育成を目指し、子どもたち一人一人の学習進度や能力・関心に応じた授業開発（「個別最適な学び」と「協働的な学び」等）に取り組む。
- ・全ての子どもたちの可能性を引き出すためのツールとして、ICTの効果的活用に取り組む。
- ・委員会活動を中心に、生徒の読書量増加に向けた手立ての工夫に取り組む。
- ・生徒の思考力・判断力・表現力を伸ばすために、活用力を問う問題作成力の向上に取り組む。
- ・自学自習の確立に向け、家庭学習の習慣化に取り組む。(家庭学習の課題の出し方や内容の精査、家庭学習が定着しない生徒への手立ての工夫、小学校や家庭との連携等)
- ・学力向上に係る正答率30%未満の生徒については、試験週間の「学力アップ講座」だけでなく、日々の授業での支援策を個別の指導計画等で示すなどして全教科で統一して取り組む。
- ・各種検定試験については、「入試問題」の過去問プリントを設置しているブースのレイアウト等を工夫・充実を図り、生徒の受検への興味・関心を高める。

○生徒間での成長と、他を思いやる心を育成する。(徳)

- ・「御調プライド」を持ち、教職員と生徒による「学びの風土」づくりの徹底と深化に取り組む。

- (1) 時を守る … つねに時間を意識し、一步先を見通して生活できる生徒
- (2) 場を清める … 緊張感のただよう中、清々しい気持ちで活動できる場をつくることのできる生徒
- (3) 礼を正す … 相手を感動させ、心地よくさせるような所作を身につけた生徒

- ・小中高連携や地域ボランティア活動の充実を図り、他を思いやる心の育成に取り組む。
- ・エリア活動や生徒会活動の充実を図り、仲間と共に高め合う活動の工夫に取り組む。
- ・配慮を要する生徒への対応など特別支援教育の視点を通常学級の指導に活かすよう取り組む。
- ・スクールカウンセラーによる生徒全員への計画的な面談など教育相談体制の充実を図る。
- ・エリア活動の内容の充実を図り、生徒の自主性を向上させるための活動内容の工夫に取り組む。

○業務改善を志向し、ワーク・ライフ・バランスの実現を目指す。(働き方改革)

- ・行事の精選などへの取組を通して、業務改善に対する意識の向上を図る。
- ・まず1学期において、月に1度の水曜日5時間授業を試行する。
- ・定時退庁日(水曜日)の実現に向けた取組(退庁時間の見える化等)を工夫する。
- ・部活動顧問二人体制の意味を理解し、部活動業務の改善を図る。
- ・年休取得10日以上の実現に向け、授業時数等の進捗管理を徹底する。